

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター主催



2015. 8.22(sat) ・ 23(sun)
全国スクールリーダー育成研修

E.FORUM 2015



Q. 「E.FORUM」とは？

A.

広く教育に関心を持つ人々の

「広場」

です。

研究科長よりご挨拶



E.FORUM によろそお越しくございました。お蔭様で今年は10周年を迎えることができました。Eは「教育(education)」の略、FORUMは古代ローマ時に遡る「広場」を意味する言葉であり、多く人が集まって、教育の意味とそれが果たす役割について、主体的かつ自覚的に考えていこうとするスタンスを私どもは重視しています。今回もこの広場で、参加者の皆様の探しているものが見つかることを願っています。

子安 増生(京都大学大学院教育学研究科長)

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー(教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど)の育成・力量向上が求められています。そこで、京都大学大学院教育学研究科では2006年度にE.FORUMを設立し、毎年「全国スクールリーダー育成研修」を提供しています。2012年度からは、教師をめざす学生たちにも積極的な参加を呼び掛け、教師のライフコース全体を見通した力量向上のネットワークを築くことをめざしています。

本年度も下記の日程で研修を実施いたします。是非ふるってご参加ください。

学校教育研究フェスタ

日程：2015年8月22日(土)・23日(日)

対象：全国からの希望者100名程度(先着順)

※1日目または2日目のみの参加も受け付けています。

会場：京都大学吉田キャンパス
人間・環境学研究科 地下1階 B23
(詳細は裏面の地図をご覧ください)

参加ご希望の方は、申込用紙(E.FORUM ホームページからダウンロード可能)にご記入の上、8月2日(日)までに、メールまたはFAXで事務局までお送りください(ただし、定員になり次第締め切ります)。

参加費

2日間：5,000円(学生3,000円)
1日のみ：3,000円(学生2,000円)
当日に受付でお支払いください。

※懇親会に参加をご希望の方は、懇親会費(3,000円)が必要です。

※お弁当(1個1,000円)をご用意できます。



お問い合わせ先：京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Fax: 075-753-3033

E-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(申込用紙はホームページからダウンロード出来ます。)

URL: <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>

E.FORUM

検索

プログラム

2015年8月22日(土)

会場:人間・環境学研究科棟 地下1階 大講義室(B23)

9:30-10:00	受付	(講師)	(司会)
10:00-10:15	オープニング		西岡 加名恵
10:15-11:45	講義「グローバル化する教育と留学概念の転換」	杉本 均 教授	山名 淳
11:45-13:15	昼休み(お弁当※:1,000円)		
13:15-14:45	講義「児童期・青年期の発達と心の理解」	大山 泰宏 准教授	山名 淳
15:00-17:30	シンポジウム&ワークショップ 「『E.FORUMスタンダード』を再検討する」	(国語)	八田 幸恵 准教授
		(社会)	鋒山 泰弘 教授
		(算数・数学)	石井 英真 准教授
		ほか	
18:00-20:00	懇親会※ (会場:京大時計台前カフェレストラン「カンフォーラ」 参加費:3,000円)		

2015年8月23日(日)

会場:人間・環境学研究科棟 地下1階 大講義室(B23)

9:30-10:00	受付	(講師)	(司会)
10:00-10:20	オープニング		西岡 加名恵
10:30-12:00	講演「知力を測る——多重知能理論への道」	子安 増生 研究科長	石井 英真
12:00-13:30	昼休み(お弁当※:1,000円)		
13:30-15:55	<E.FORUM 創設 10周年記念企画> ワークショップ 「同僚・生徒とのコミュニケーションの取り方」	平田 オリザ 教授	服部 憲児
15:55-16:00	クロージング		

※お弁当・懇親会参加をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出の上、当日に代金をお支払い下さい。
キャンセルされる場合は8月2日(日)までにご連絡をお願い致します。

昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です)



3歳児の事例が、大変興味深く聞かせていただきました。担任した子どもたちの顔が次々と浮かび、その子たちへの対処法のヒント、アドバイスを、賞賛をいただけたと感じました。ぜひ、他の年齢の事例もお聞きしたかったです。現場で接する際の力になると思います。
(小学校教諭)

教育の実践を高める方法をくわいて教えてもらえたことで、とくに、判断したり、見きわめたりという、あきらめていたことをみがけると思えたことが、一番の成果です。
(中学校教諭)

初め教育的タクトと聞いて、授業の時の発問のよう内容かと思いました。自分の中の触覚、感覚を育て、そのタクトを、いつ、どこで、どのタイミングで使うのか。経験と理論を合わせて指導していくものだと感じました。日々、考えて自分自身を変化させ、成長していく事が大切だと思いました。
(高等学校教諭)



高校教員になってから、ずっと歴史学の勉強はしてききましたが、教育学の講座にはわざわざ参加したことはありませんでした。しかし、教育学は現場にとって、本当に有用ですね! 大変興味をもちました。
(高等学校教諭)

10:15-11:45

講義「グローバル化する教育と留学概念の転換」

最近の留学しない「留学」ってご存知ですか？「飛ばない飛行機」みたいで自己矛盾しているようですが、現実には存在しますし、世界中で今、爆発的に展開しています。これは留学という言葉の持つ二重の意味のずれによって生じたパラドックスで、トランスナショナル高等教育(留学)と呼ばれています。そもそも「留学」って何でしょう？改めて聞かれると、正確な定義を知りません。しかし実は正確な定義などなかったのです。日本は高等教育に至るまで教育制度を自国で完備できる国です。私たちはこの外国に頼らなくてもいい日本の教育を誇りに思っていると思います。しかし、グローバル化によって風穴があいた今となつては、その完璧さゆえの欠点にも目を向けるべきでしょう。

【主な著書】『トランスナショナル高等教育の国際比較——留学概念の転換』(編著、東信堂、2014年)、『ブータン王国の若者たち——その教育と「幸福」の行方』(編著、岩波書店、2015年、印刷中)



専門は比較教育学、フィールドとしては東南アジアの教育、南アジア・ブータン王国の教育などを研究しています。国境を超える教育現象に関心があり、自分自身もマレーシアと英国に留学しました。近年の日本の若者の内向き志向や、世界のトランスナショナルな留学の展開に大きな関心を持っています。

13:15-14:45

講義「児童期・青年期の発達と心の理解」

この講義では、児童期から青年期に至るまでの、子どもたちに生じる様々な発達の・心理的变化を辿り、それぞれの時期に生じがちである課題や問題(精神疾患や発達障がいを含む)について整理するとともに、それらに対する周囲の者からの支援やサポートのあり方について検討します。

とりわけ、前思春期(小3~小5)には、子どもの心に大きな構造変化が生じますが、表面的には目立たないので、これまであまり注目されてきませんでした。しかしこの時期は、子どもの社会性や発達上の問題が深刻化したり顕在化することも多く、その後の発達に大きな影響を与えます。こうしたことも含め、子どもの内的変化を、繊細に捉えるための見方を学ぶ予定です。

【主な著書】『改訂新版/人格心理学(放送大学「人格心理学15」印刷教材)』(NHK出版、2015年)、『臨床心理学』増刊第6号/臨床心理職のための「研究論文の教室」(共編、金剛出版、2014年)



専門は臨床心理学。京都大学で臨床心理士をめざす学生たちに教育をおこなうとともに、乳幼児から老年期まで、ライフサイクルの広い範囲の方々を対象に、心理療法やカウンセリングをおこなっています。

昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です)



今回も内容がとても充実していて、おなかいっぱいになりました。前回とはちがう立場や視点で話を聞くこともできました。また何か一つ二学期から実践してみても、また来年も来させてもらいたいと思います。ありがとうございました。(小学校教諭)

思考する場あり、経験知を共有する場あり、興味が持続できる工夫があり、とても充実しました。(中学校教諭)

普段、学校現場で埋没している、出会えないような話、経験の積みかさねを、理論を学ぶことで、補強できたり、位置付けたりできるようなってきたので、何でも学びたい。(高等学校教諭)

グループワークについては、全国様々の先生と話ができとても貴重な場となりました。県内の研修とは一味違った雰囲気です。講義のどれも高レベルにありながら、本質論的なことが多く、とても、ためになりました。(高等学校教諭)

授業や教材、評価について具体的に提案されたことにより、様々な気づきがありました。明日からのエネルギーとして頑張りたいと思います。(高等学校教諭)

パフォーマンス評価について勉強したくて参加しました。かなり霧が晴れました。もう一度、これまでに読んだ書籍を読み返して、実践へのアドバイスができるよう努力したいと思えます。(教育委員会・指導主事)



15:00-17:45

シンポジウム&ワークショップ

『E.FORUM スタンダード (第1次案)』を再検討する

E.FORUM では、2006 年の創設以来、2013 年までパフォーマンス課題づくりの研修を提供してきました。さらに、参加者の皆さんが開発された事例を集約し、広く実践の改善に役立てていただくため、2014 年までに「E.FORUM スタンダード(第1次案)」をまとめました。「スタンダード」とは、社会的に共通理解された目標・評価基準です。「E.FORUM スタンダード(第1次案)」では、各教科における重点目標とは何かを探り、包括的な「**本質的な問い**」・「**永続的理解**」を提案するとともに、**パフォーマンス課題**を例示しています。

「資質・能力」の育成やアクティブ・ラーニングが重視される昨今、パフォーマンス課題にはますます注目が集まっています。このシンポジウム&ワークショップでは、「E.FORUM スタンダード」をさらに改善していくための検討を行いたいと思っています。

前半では、国語、社会科(地歴・公民科)、算数・数学に焦点を合わせ、「E.FORUM スタンダード」の改訂に向けた提案を行います。後半は、ご関心のある教科のグループごとに分かれ、議論を深めます。

【国語】

八田幸恵(大阪教育大学・准教授)

【社会】

鋒山泰弘(追手門学院大学・教授)

【算数・数学】

石井英真(京都大学大学院教育学研究科・准教授)

【理科】

大貫守(京都大学大学院教育学研究科・院生、日本学術振興会特別研究員)

【音楽・美術】

小山英恵(鳴門教育大学・准教授)

【保健体育・技術家庭】

北原琢也(京都大学教育学部・非常勤講師)

【英語】

赤沢真世(大阪成蹊大学・准教授)

【司会】

西岡加名恵(京都大学大学院教育学研究科・准教授)

用語解説

「パフォーマンス課題」とは？
複数の知識やスキルを、状況の中で総合して使いこなすことを求めるような、複雑な課題(レポートやプレゼンテーションなど)。「真正の」パフォーマンス課題では、リアルな文脈(あるいはシミュレーションの文脈)における知識・スキルや理解の発揮が求められる。

「本質的な問い」とは？
カリキュラムや教科の中核にあり、探究を促したり、本質的な内容を看破することを促進したりするような問い。単元全体を貫いたり、単元を超えて繰り返し問われたりするような問いである。

「永続的理解」とは？
数年たって詳細を忘れた後でも身に付けておいてほしいような、重要な理解。「永続的理解」は、学問の中心にあり、新しい状況に転移可能なものである。また、教室の中だけでなく、生活場面など様々な状況において価値を持つような理解である。

パフォーマンス課題、「本質的な問い」・「永続的理解」という用語を…

知らない

知っている

「逆向き設計」論に基づき、パフォーマンス課題を作ったことが…

ない

ある

京都大学 OCW サイト (<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja>) のご紹介



★★★ オススメ ★★★

教育課程論 I (2014 年度)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/14-9233001>

教育課程論 II (2013 年度)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>

ダウンロードはこちらから…



E.FORUM ウェブサイトの「研究成果のご紹介」をクリック
http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/kenkyu_seika/40/

★★★ お願い ★★★

当日は、ご関心のある教科の「E.FORUM スタンダード(第1次案)」をプリントアウトの上、ご持参ください。

『E.FORUM スタンダード (第1次案)』を見たことが…

ない

ある

10:30-12:00

講演「知力を測る—多重知能理論への道」

この講演では、まず「教育効果の検証」の問題に触れた後、知力を測る研究の歴史について述べ、アメリカの心理学者ハワード・ガードナーが提唱した「多重知能理論」の概要とその教育的意味について考えます。19世紀後半に日本を含む先進工業諸国で始められた公教育は、たちまち個人差の多様性の問題に直面しました。「普通」教育を受けることが困難な児童を診断するために、フランスの心理学者アルフレッド・ビネーらは1905年に個別的実際の知能検査を開発しました。知能検査は、20世紀前半において成功をおさめました、やがて限界に直面しました。多重知能理論がその限界をどのように打開しようとするのかについてお話します。



子安 增生 教授

私は、教育実践には発達の視点が不可欠と考えています。私の専門の発達心理学は、歴史的視点と科学的方法とを備えた学問です。今回の講演では、「知能」を切り口に、教育と教育効果の検証の問題について考えます。

【主な著書】

『心が育つ環境をつくる』(新曜社、2014年)、『ミラーニューロンと心の理論』(新曜社、2011年)、『発達心理学特論』(放送大学教育振興協会、2011年)、『よくわかる 認知発達とその支援』(ミネルヴァ書房、2005年)、『芸術心理学の新しいかたち』(誠信書房、2005年)、『心の理論』(岩波書店、2000年)、『幼児が「心」に出会うとき』(有斐閣、2000年)など。



E.FORUM Online (EFO) のご紹介

E.FORUM では、会員の方が開発された様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「E.FORUM Online (EFO)」を開設しています。EFO に蓄積された各種のデータ(単元指導計画、パフォーマンス課題やルーブリックなど)は、会員が日常的に活用し、実践に役立てることができます。また、寄せられたご質問に対し、講師が回答するサービスも行っています。

「全国スクールリーダー育成研修」を受講された方は、EFO が利用できる「E.FORUM 会員」として自動的に登録されます(会費は無料、退会はいつでも可能です)。



E.FORUM のホームページ
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>



掲示板での交流



発言例:
 「unit67」に、今、授業でやっている課題について書き込みました。アドバイス・コメント等お願いします。」



「閲覧」をクリックすると、そのユニットのページが開きます。

単元指導計画、パフォーマンス課題、ルーブリック、ワークシート、児童・生徒の作品例など、各種データが掲載されています。

13:30-15:55

ワークショップ「同僚・生徒とのコミュニケーションの取り方」

多様な人々と協働していく必要性の高まる現在、コミュニケーションや対話の重要性が叫ばれ、様々な“スキル・トレーニング”が推進されています。しかし一方で、「子どもたちとどう向き合えばいいのかよくわからない」、「職員室の中で気楽な雑談ができなくなってしまった」といった声を学校現場で聞くことも少なくありません。

この度、『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』（講談社、2012年）、『新しい広場をつくる——市民芸術概論綱要』（岩波書店、2013年）、『世界をわたりあうために』（徳間書店、2014年）、『幕が上がる』（講談社、2014年）などのご著書もある、平田オリザ先生にお越しいただき、「そもそもコミュニケーションとは何なのか」、「どのように対話すればよいのか」を体験的に学ぶワークショップをご提供いただけることとなりました。

E.FORUM 創設 10 周年記念企画として、またとない貴重な学びの機会になることと存じます。どうか皆様、お楽しみにお越しください。

講師からのメッセージ

今日、どこへ行っても「コミュニケーション能力」が取りざたされます。しかし、「コミュニケーション能力」とはなんのでしょうか？ その場の雰囲気や空気を壊さないことでしょうか？ いいえ、本当のコミュニケーション力とは、その場の空気を読む力ではなく、お互いの際を擦り合わせる能力のことです。このことをワークショップを通して学んで下さい。

略歴

劇作家・演出家・青年団主宰。

こまばアゴラ劇場芸術総監督・城崎国際アートセンター芸術監督。

1962年東京生まれ。国際基督教大学教養学部卒業。

1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞受賞。

1998年『月の岬』で第5回読売演劇大賞優秀演出家賞、最優秀作品賞受賞。2002年『上野動物園再々々襲撃』（脚本・構成・演出）で第9回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。2002年『芸術立国論』（集英社新書）で、AICT 評論家賞受賞。2003年『その河をこえて、五月』（2002年日韓国民交流記念事業）で、第2回朝日舞台芸術賞グランプリ受賞。2006年モンブラン国際文化賞受賞。2011年フランス国文化省より芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。

東京藝術大学 COI 研究推進機構 特任教授、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター客員教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐、京都文教大学客員教授、（公財）舞台芸術財団演劇人会議理事長、埼玉県富士見市民文化会館キラリ☆ふじみマネージャー、日本劇作家協会副会長、日本演劇学会理事、（財）地域創造理事、豊岡市文化政策担当参与。

青年団公式ホームページより転載 <http://www.seinendan.org/hirata-oriza>



平田 オリザ 教授

会場案内

※京都大学ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access>)もご参照ください。



※ 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- JR・近鉄 京都駅より
 - ・ 混み合うシーズンに一番早いルートは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行き、そこからバスかタクシーで移動する方法です。
 - ・ 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約 40 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 25 分。
- 地下鉄烏丸線 今出川駅より
 - ・ 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ 市バス 203 系統「銀閣寺通・錦林車庫」行「百万遍」下車。所要時間 約 15 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 10 分。
- 阪急 河原町駅(出口6番)より
 - ・ 市バス 31 系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 15 分。
- 京阪 出町柳駅(出口4番)より
 - ・ 市バス 201 系統「祇園・みづ」行「京大正門前」下車。所要時間 約 5 分。
 - ・ タクシー 所要時間 約 5 分。
 - ・ 徒歩 所要時間 約 10 分。

※ 宿泊については、各自で手配してくださいようお願いいたします。